

技 術・実 践

看護問題や目標を共有することを目的とした 術前カンファレンス実施への取り組み

盛岡赤十字病院 手術室

高橋 尚子

【研究の背景】

以前私が担当した手術症例で、医師・看護師間で術前カンファレンスを行うことで、安全に手術が遂行でき、カンファレンスの重要性を実感した。日頃、手術を担当する外回り看護師が主となり器械出し看護師と術前に情報共有を行っているが、看護問題や看護目標を十分に共有しないまま手術へ臨んでいる。情報共有と個別性に応じた看護提供を目指し、術前カンファレンスの実施に取り組んだ。

【用語の定義】

術前カンファレンスとは、担当者間で情報や問題点を共有すること。

【目 的】

術前カンファレンスで情報や問題点、目標を共有し手術へ臨む。

【方 法】

1. 実施期間：2016年9月～10月
2. 実施内容：「今日の目標を言葉で伝えよう」という標語を掲げ外回り看護師だけでなく器械出し看護師も目標を発表するよう呼びかけた。術前カンファレンス実施症例を選出し、担当者へ実施を促した。カンファレンス実施後、担当看護師より内容と感想の聞き取りを行った。

【倫理的配慮】

本研究は病院倫理審査委員会の承認を得た。研究対象者に目的、方法、自由意志による参加を説明し、同意を得た。個人情報の保護に配慮した。

【結 果】

11症例の術前カンファレンスを実施した。外回り看護師からは、不安に対する援助、体位固定の具体的な方法や除圧のための使用物品の選択、体温低下の予防等があげられた。器械出し看護師からは、緊急事態の予測を含めた手術に使用する器械の準備や確認、手術進行に合わせたスムーズな器械出し、不安への援助、体位固定を確実にを行うなどの目標があげられた。看護問題や看護目標を言葉にした感想として、具体的に言葉にすることで看護手順や方法が統一され、チームとして同じ目標に取り組んでいると実感した、お互いの考えていることを知る機会となったという言葉が聞かれた。

【考 察】

看護問題や看護目標を言葉にする事で、自分や相手の考えを知るとともに問題点や目標が明確になり、看護ケアに対するより良い方法を見出し、共通の認識で看護実践ができた。術前カンファレンスでの良好なコミュニケーションや意見を言い合える環境がチーム力を高め、より良い看護実践へつながった。さらにカンファレンスが思考過程や看護の根拠

を伝える教育的役割の場となると考える。

【ま と め】

術前カンファレンスの実施により，看護問題や思考過程を共有することで，同じ認識で看護実践ができ，教育的効果も得ることができた。

（本論文の要旨は平成29年11月4日 第31回日本手術看護学会年次大会で発表した）